

白山手取川ジオパーク(子どもジオパーク博士)

団体名●池上フィールド／代表者名●池上奨(人間科学部教授)

はじめに

ジオパークとは、「大地の物語(ジオ)」と「自然(エコ)」、そしてそれらと私たちの「生活、歴史、文化、産業(ヒト)」との関わりを学び、楽しむ場所である。白山手取川ジオパークは、石川県白山市全域をエリアとして、2011年に日本ジオパークに認定された。同ジオパークの運営団体である白山手取川ジオパーク推進協議会では、2012年から、主に市内在住の小学校中・高学年の児童を対象に、野外教育プログラムとして、子どもジオパーク博士の養成に取り組んでいる。2015年からは、金沢星稜大学人間科学部子ども学科が企画段階から参加し、同協議会と協同で開催している。

活動内容 プログラムの企画・立案の過程

今回のプログラムは、ホワイトロードでの崖崩れの復旧工事の遅れがあり中宮展示館、蛇谷園地での水遊びが行う事が出来ず、大幅にプランの変更を余儀なくされた。河内の山でのトレッキング、アート活動、福浪漫さんのバターナイフ作りなどである。

子どもジオパーク博士2日間の日程と活動概要
活動場所・活動内容
7月27日(土)
道の駅しらやまさん・ジオパークの説明を聞く
白山ろく民族資料館・栃餅つき・かましりこ実食
百万貫の岩・岩の説明/見学
白山恐竜パーク・化石発掘体験
道の駅しらやまさん・一日目を振り返る
7月28日(日)
道の駅しらやまさん・2日目の説明を聞く
不老橋・綿ヶ滝: 峡谷ウォッチング
河内の山でのトレッキング・アート活動
石川ルーツ会館・バターナイフ作り福浪漫さん ・子どもジオ博士認定式

成果、結果の考察

学生が児童達から得た学び

今回の事業では、児童が学生から学んだだけでなく、学生自身も児童から学びを得ている。以下の4つに整理し挙げたい。

1点目は、児童の興味を惹く工夫である。例えば、クイズや紙芝居を用いて児童が集中して話を聞けるように説明を行った。児童は学生の説明に興味を持って聞いていた。

2点目は、児童との接し方に於ける学びである。児童の中には、中々周りの児童達と話す事が出来ず孤立してしまっている児童もいた。孤立している児童に対しては、学生が積極的に傍で活動し、他の児童と交流する機会を設けるなど工夫を行った。

3点目は、1つのことを教える為に、分からない事は十分に調べて理解する事の大切さである。

児童は思いもよらぬ視点から学生に質問する事もあり、学生は、教える際には事前に自分達が内容をしっかり理解し、本番をイメージした練習を重ね、相手に伝わるように話す事が大切である事を学ぶ事が出来た。

4点目は、筋道や根拠に基づいて目標を立てる事である。例えば企画立案過程に於いて、協議会職員との対話の中で学生は様々な事に気づく事が出来た。

今後の課題、展望

今回の企画は、児童にとって普段、体験出来ない事を新しく出来た友達と楽しめる活動になった。

またプログラムに於いて、体験活動を取り入れた事で児童の印象に残ったが、聞くだけの学習活動ではあまり印象に残らなかった。したがって児童の印象に残るような説明をし、児童が楽しめて満足出来る様な活動を企画、運営する事が今後の課題である。

